

自主管理システム (株)光洲産業が参加

弊社は、今年2月19日に産廃ネットに2次先すべての処理実績を公表することにより、自主管理システムに参加する事になりました。

参加が決まると、組合と日建連建築・土木副産物専門部会の書類と工場の視察を4月4日に受けることが決まり、視察に来られる方も組合から6名、日建連建築・土木副産物専門部会から16社18名、合計24名と言う大勢の方々の視察が決まり、繁忙期が終わった直後とプラントの増設工事中のなか大手ゼネコンの安全環境部の方々や同業の方を迎えさせて頂きました。今回の工場視察で一番気にかけた所は、安全です。幾ら、整理・整頓が行われていても安全をないがしろにしては視察に来た方に安心して場内を巡回して頂けないと感じたからです。増設工事中と言うこともありプラント内部の開口部の養生、手摺り、安全帯の使用箇所等が多くあり、安全のプロに指摘を受けない様に心がけたつもりです。



今回の、視察で工場の従業員にもこれまでにない緊張感が走りとても新鮮な気持ちでお客様をお迎えする事ができ、今後の事も考えると、大変勉強になりました。

最後になりますが、弊社の視察に来られました方々にはお忙しい中ご足労頂き誠にありがとうございます。これからも適正処理とリサイクルの向上を目指して努力してまいりますので宜しくお願いします。

株式会社光洲産業 佐々木宏幸

(株)光洲産業が自主管理システムの取り組みをスタート

総勢24名が2班に分かれ、施設確認と書類による数量確認を交代で実施しました。施設確認においては、その選別精度の高さに驚きの声が出ていました。書類確認においては、いくつかの疑問点等が指摘され、整理のうえ後日書面で回答することになりました。

[指摘事項及び回答はこちら](#) ※5月下旬頃UP予定

春の交通安全運動の結果

収集運搬委員会

4月6日～4月15日まで春の全国交通安全運動に合わせ、組合でも同じ期間交通安全運動を実施しました。運搬車を保有する29社中26社が参加しました。



組合全体で期間中9件の事故がありました。参加運搬車1391台中9台、主に物損事故でした。組合で結果をまとめたものは[こちら](#)からご覧ください。



初めての試みでしたが、組合員からは、今後とも継続していくことが大事だという意見が多く出ました。取り組み方、表示方法等検討を重ね、交通安全運動を続け、今後とも組合では、事故・違反ゼロを目指していきたいと思えます。

視察・・・株式会社レックス 株式会社トクヤマ・チヨダジプサム 高野興業株式会社

建廃協は2013年4月18、19日に日建連との処理施設の合同視察会を実施しました。2日間で延べ12名が参加・見学しました。

◆(株)レックスRPF沼津工場・・・4月18日

(株)レックスは、特種東海製紙(株)の関連会社で同社製紙工場のボイラー燃料としてRPFを供給しています。島田工場、金谷工場に加え、昨年から操業を始めたのが沼津工場です。現在、700t/月程度を生産し、特種東海製紙(株)三島工場に供給しています。RPFとは廃プラスチックと紙くずを破碎、熔融成形し、発熱量を6~8,000k cal/kgに調整した廃棄物固形化燃料です。産業廃棄物処理施設であるため、廃プラスチックの入手は比較的容易ですが、産業廃棄物の古紙の入手に苦労されているようです。燃料用のためダイオキシン類を発生させないよう受入

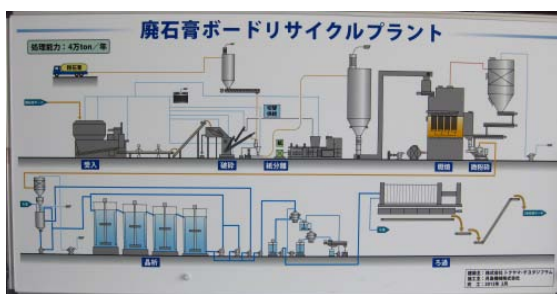


品質として塩ビの混入を厳しく規制しています。月産1,000t体制に向け原料確保に努力されているようです。組合員からは新規契約分を沼津工場で受け入れるとのことでした。



◆トクヤマ・チヨダジプサム(株)廃石膏ボードリサイクル工場・・・4月19日

・・・「ボード to ボード」のリサイクルを可能とした廃石膏ボードリサイクル工場・・・

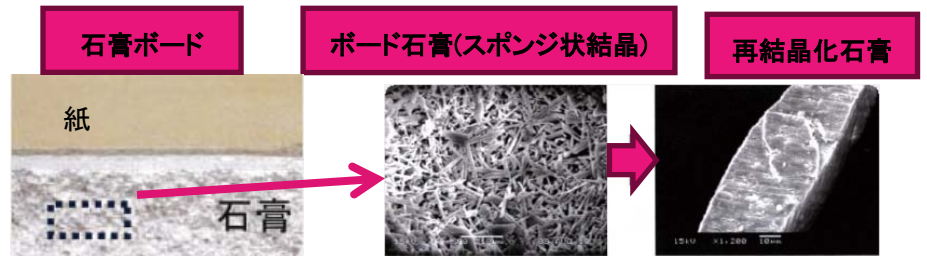


(株)トクヤマと石膏ボードメーカーのチヨダウーテ(株)が共同出資して、2011年トクヤマ・チヨダジプサム(株)を設立、後述の技術を活用した廃石膏ボードリサイクル施設をチヨダウーテ(株)本社工場内に建設し、2013年3月に操業を開始しました。

これまでも新築石膏ボード端材は、広域認定制度を活用して石膏ボードメーカーが回収し、石膏ボード原料としてリサイクルされていました。しかし、この方法では天然石膏、副生石膏等の材料に再生石膏の混入は10%が限度と言われています。そのため、膨大に発生する解体石膏ボードのリサイクルは困難となっていました。

石膏ボードは、原料の石膏(二水石膏 $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$)に熱を加え、焼石膏(半水石膏 $\text{CaSO}_4 \cdot 1/2\text{H}_2\text{O}$)にした後、水に溶かして紙の型に流し込み、上から紙で蓋をするように挟み込みます。半水石膏が水と反応し二水石膏に戻る過程で針状結晶となり、この針状のものが挟み込んだ紙に食い込みながら固まることにより石膏と両面の紙が強く接着し出来上がります。この時、石膏ボードから紙と分離させただけの石膏は軽いスポンジ状結晶の状態ではリサイクル原料として10%以上混入させ使用すると、コスト的にも、品質的にも問題が出るようです。この常識を覆したのが(株)トクヤマの技術です。

(株)トクヤマは長年の研究により、廃石膏ボードから得られた二水石膏を再結晶化させ、天然石膏や副生石膏と同等の石膏を連続的に作ることに成功しました。受け入れた石膏ボードは破碎して紙と分離した後、水に溶かしスラリー状にして異物を除去、その後熱を加え再結晶化の反応をさせます。



これまでの石膏ボードリサイクル施設に比べ、エネルギーコスト等処理費用はかさみますが、石膏ボード工場内に併設させたことにより、安いエネルギーを利用できること、生産した二水石膏はそのままボード原料に使用できるため搬送コストが節約できること等により、既存リサイクル施設と同程度の受入価格を設定できるとのことでした。また、この施設では、スラリー状での湿式での異物除去であること、生産された石膏の使用に制約がないことから、大量に発生する解体ボードのリサイクルが可能となります。これにより、建設リサイクル法の施行以来大きな課題であった石膏ボードの「特定建設資材」化の道が開かれることとなります。操業まもないため、まだ搬入量、処理量とも多くありませんが、年間4万トンの処理能力があります。今後の飛躍を期待したい施設です。



◆高野興業「分級選別施設」・・・4月19日

・・・解体ミンチ、選別残さを乾式、湿式併用で処理、リサイクル化・・・

高野興業(株)(三重県桑名市)は四日市市内に、解体ミンチや選別残さを対象に、風力選別と洗浄選別を併用した分級選別施設を2012年に稼働させました。

この施設では、トロンメル等を用いて0~40 mm、40~100 mm、100~300 mm、300 mm~の大きさに分け(分級)、100 mm以上のものは隣接する自社中間処理施設で再処理、その他のものは風力で選別し、軽量物はグループ会社でRPF原料としてリサイクルしています。残りのもの(不燃物が主)を水で洗浄した後、



0.075~3.5 mm(砂)は再生砂として、0~0.075 mm(シルト汚泥)は脱水、改良後埋戻し土として、3.5~40 mmは再生砕石として販売しています。残りはやはり自社中間処理施設で再処理されます。



再生砂、改良土は三重県では廃棄物を卒業した製品とみなされているとのことでした。(愛知県ではあくまで廃棄物として判断されるという話でした) 湿式ということから、再生砂は良質のものですが、グループ会社のRPF施設、中間処理施設を含め、総合的に評価することが必要なようです。

今回の視察は、特徴のある施設で大変興味深いものでした。今後の動向を見守りたいと思います。

基礎講習会・・・日本教育会館

平成 25 年 4 月 23 日(火)千代田区の日本教育会館にて産業廃棄物に係る基礎講習会が行われました。この講習会は新年度を迎え新入社員が入社するこの時期に廃棄物処理の基礎知識を深めることを目的とし、毎年開催されています。

今年は男性 46 名、女性 12 名、スタッフ 5 名の計 63 名が参加しました。まず、緊張気味の新人を和らげるような島田理事長の挨拶から午前の廃棄物処理法の基礎の講義がスタート、講習会アンケート結果にもあるように新人にもわかりやすく、今後の業務に役立つ内容となっており、改めて私自身も大変勉強になりました。



昼食後、リラックスモードから一転して松村氏の講義が始まりました。今年 2 月に東日本大震災での災害廃棄物処理の現状を視察され現地で感じたこととお話頂き、テレビやネットなどではあまり報じられないことのない災害廃棄物処理の現状を目の当たりにし、被災地復興の大変さを痛感いたしました。1 日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

そして午後のメインである委託契約書とマニフェストの演習が始まり、私自身も初めて委託契約書とマニフェストの作成にチャレンジしましたが、思っていたよりも時間が掛かってしまい制限時間内に完成させることが出来ず、アンケートの結果からも時間が足りなかったとの意見が過半数を占めていることから、作成作業に慣れていないと少し時間的に厳しい印象でした。しかし演習を通して実際に委託契約書とマニフェストを作成することは、新人の体験学習という意味では大変効果的であると感じました。



今回の基礎講習会以外にも月に一度、建廃協にて定期講習会が開催されるとのことですので、新入社員のスキルアップを目的とした人材育成の一環として積極的に活用したいと思います。

未筆になりますが、お忙しい中講師を務めていただきました島田理事長、佐々木事務局長、ワイエム興業株式会社の松村専務、本当に有難うございました。

株式会社 IWD 佐治 宏行

※アンケート結果はこちらから

お知らせ

- ★5 月 29 日(水)通常総会が行われます。京橋区民館 2F で 14:30 より。本日案内を送りました。
- ★賛助会員である、コマツ建機販売株式会社の住所・電話番号が変更になりました。HP の組合員・会員のページでご確認ください。
- ★6 月 14 日(金)に第 4 回エコドライブ講習会が開催されます。早くも定員に達するご応募、ありがとうございました。
- ★6 月 1 日より建廃協のホームページのなかの組合員専用ページに入るときのパスワードが変更になります。新しいパスワードは建廃協発信文書受付担当の方へ、前日までにお知らせいたします。セキュリティ強化の為、毎年変更されますので、新しいパスワードは建廃協発信文書受付担当者へお聞き下さい。

○建廃協では、NEWS に載せてほしい事柄、また載りたい方も募集中です。

どんなことでもかまいません感想などもぜひこちら→ jimukyoku@kenpaikyo.or.jp まで。